

P2-039

特別支援学校で働く看護師と多職種との協働のシステム

長谷川 由香¹、井上 寛子²、鬼頭 泰子¹、
黄波戸 航¹

¹佛教大学 保健医療技術学部 看護学科

²関西看護医療大学 看護学部

先行研究では特別支援学校での協働に関する項目として人間関係、専門性や役割に対する相互理解、情報共有等が抽出されている。これらは、協働の定義を明らかにしていないが、協働を人と人との関係性から捉えていることが伺える。協働を人と人との関係性だけに限定してしまうことで課題解決は、個人の能力や職種間の関係性向上に向けた対策に偏る恐れがある。著者は、協働を「ともに取り組んでいくシステム（要素とプロセスを含む）」と捉えている。協働をシステムと捉えることで、これまで表面化しなかった課題が見えてくるのではないかと考える。

【目的】

本研究では特別支援学校における看護師と多職種との協働をシステムとして捉えなおすための視点を抽出し、新たな課題を見出す。

【方法】

対象は特別支援学校に勤務経験のある看護師11名。調査は半構成的面接を実施し協働がうまくいった、あるいはうまくいかなかった事例について語ってもらった。分析は、内容分析を行いインタビューデータをもとに協働に関わる視点に焦点を当ててコード化し、共通の意味内容をもつものを集めてカテゴリー化した後、カテゴリー内の構成単位を、文脈における意味を考慮し抽象度を吟味しながら構造化していった。

【結果】

分類された大項目は【看護師を取り巻く人間関係】【居場所】【看護師の経験】【情報交換】【看護師の役割と業務】【仕事への思い】【雇用環境】【医療的ケアの負担度】の8つであった。【看護師を取り巻く人間関係】において、看護師は養護教諭や教員とのつながりが強いことは先行研究で示されているとおりである。しかし、【看護師を取り巻く人間関係】においての新たな課題として、看護師と学校長や教員と保護者との関係も看護師の行動に影響を与えていた。また、【医療的ケアの負担度】が高く【看護師の経験】では対応できない場合は、協働を困難にしていた。【雇用環境】による制約は、タイムリーな【情報交換】の機会が得られず、【看護師の役割と業務】に支障をきたしていた。

【考察】

看護師は、医療的ケア児が安全に教育を受け続けられる環境を整えることを目的とし、協働メンバーとして行動を起こすが、その行動の背景には看護師がおかれている状況が影響していた。今後、協働をシステムとして捉え、今回得られた視点を分析枠組みとして、個々の事例がどこで躓いているのかを明らかにし、解決に向けての指針を示していきたい。

P2-040

特別支援学校における看護師と子どもを取り巻く関係者との情報共有の実際と課題

井上 寛子¹、長谷川 由香²

¹関西看護医療大学 看護学部 看護学科

²佛教大学 保健医療技術学部 看護学科

【目的】

特別支援学校における看護師と子どもを取り巻く関係者との情報共有の実際と課題を明らかにする。

【方法】

特別支援学校で勤務経験のある看護師11名を対象とし、2016年10月～2017年11月に半構造化面接を実施した。内容は「協働がうまくいった事例、うまくいかなかった事例について」である。得られたデータをもとに、看護師は誰とどのような方法で情報を共有しているかに着目し内容分析を行った。本研究は所属機関の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【結果】

看護師は協働の過程において、以下に記述する関係者と情報共有を行っていた。1) 看護師・教諭間では、〔兄や母親の情報は担任から教えてもらう〕など〔日頃からのコミュニケーション〕を心がけており、〔教育目標を知ればケアに活かせる〕と考えていた。一方で、〔アセスメントのずれが生じる〕などの困難感や〔教諭と話し合う時間がない〕ジレンマを感じていた。2) 看護師・養護教諭間では、養護教諭を〔教諭や保護者とのパイプ役〕になる重要な存在ととらえ連携を大切に、〔保健室を拠点として口頭で情報共有〕を行っていた。3) 看護師・保護者間では、〔連絡ノートを中心に情報共有〕を行っていたが、〔送迎時などに直接話す〕ことも心がけていた。一方で、〔教諭を介したコミュニケーションでは正確な情報が得られない〕などの問題もみられた。4) 看護師・主治医間では、〔指示書のみでの関わり〕が主であり、〔もっと気軽に連絡や相談ができると良い〕と感じていた。〔主治医訪問に同行〕する看護師は多くなかった。5) 看護師・管理職間では、〔直接話す機会は少ない〕が〔兄のケアの改善を訴え続ける〕こともあった。また、時間外となるため、多職種が参加する〔医療的ケアに関する委員会に参加していない〕場合が多かった。6) 看護師間では、勤務時間が重ならないため〔申し送りノートの活用〕や〔メールの活用〕などの工夫を行っていたが、〔常勤看護師が必要〕と感じていた。

【考察】

関係者間で情報共有を円滑に行うためには良好な人間関係が構築される必要があり、そのためには日頃からのコミュニケーションが大切である。しかし、看護師は非常勤としての時間的制約があるために教員や保護者、管理職とコミュニケーションをとる時間や委員会への参加の機会が得られないなどの問題を抱えており、情報共有の観点からも常勤看護師の設置を制度化する必要があると考える。